

# ひばり

東国分爽風学園 市川市立稲越小学校

〒272-0831 市川市稲越 3-21-8 Tel. 373-8401

<https://ichikawa-school.ed.jp/inagoshi-sho/>

## 新ひばりまつりの進み具合

校長 吉田 直美

新ひばりまつりまであと10日となりました。当日に向けてほかほかグループでの合同授業は今日初めて体育館で練習し、これで4時間分の授業が終わりました。今後は体育館での練習を中心とし、あと6時間です。当日に向けての広報活動は、3年生が校内に向けて、4年生が校外に向けて行うことになっています。新ひばりまつりとしての取組である子供発信の広報活動にわくわくしますね。

今年はなぜ「新」ひばりまつりなのだろうか、と思われる皆さんもいらっしゃると思います。その意味については、ひばりのバックナンバーでお知らせしたところではありますが、重点は「ふるさと探究科の学び」として新ひばりまつりに向けての学習を教育課程に明確に位置付けたことです。ふるさと探究科は、課題→解決策→実行→新たな課題…と展開するスパイラル学習です。課題があることが学びの展開には不可欠です。

難しい話になってしまいましたが、子供たちが様々な課題を解決しながら進めていることを温かく見守っててください。



## こんなうれしい話があるだろうか！

中央階段に掲示している「今日は何の日」。とある日に剥がれかけていることに気づいたのですが、そのままにしてしまっていたところ、その翌朝「あれ、貼ってある!？」こんな素敵なことをしてくれる人が稲越小にいるんだなあ。でも子供かなあ、それとも職員かなあと考えていました。

早速この件を校内放送で話しお礼を伝えたところ、貼ってくれたのは1年生であることがわかりました。見ていた人がいてその様子を聞いてみると、剥がれていることに気づいた本児は保健室の井出教諭にのりを借りにいき、貼り直してくれたとのこと。私はすぐさま1年生の教室に行き、本児に「ありがとう」と握手を求めると、その子は私と握手をしながら、「いいえ」といったのです。1年生ですよ！1年生が「ありがとう」に対して「いいえ」と返答できるって、すごいことだと思うのです。この「いいえ」は、「どういたしまして」の意味として発したのは皆さんにはわかると思います。「ありがとう」に対して「どういたしまして」の心を持つことができるのは、本児の心の余裕のなせる業です。一連の話を生徒指導主任の竹井教諭に伝えたところ、やはり、「そんな心を持ってるって素敵ですよ。心に余裕があるんですよ」と話していました。

「誰がやってもいいのだけれど、誰かがやってくれると誰かが助かり、ありがとうという気持ちになることを、ボランティアという」と、担任時代に子供たちに話してきました。ちょっとしたボランティアを「ちょボラ」ともいうそうです。

上記の話をきっかけに「稲越ちょボラ隊」が自然発生したら、「命 はなまる！」の一つである「自分も相手も大切にできる子ども」であられる稲越小になれそうです。